

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名:「この世で最も魅力的な表情をめぐる7日間」

テーマ:「アイドルなのに、笑えない美少女」

キャラクター

55

ストーリー

55

テーマ(設定)

45

文章力

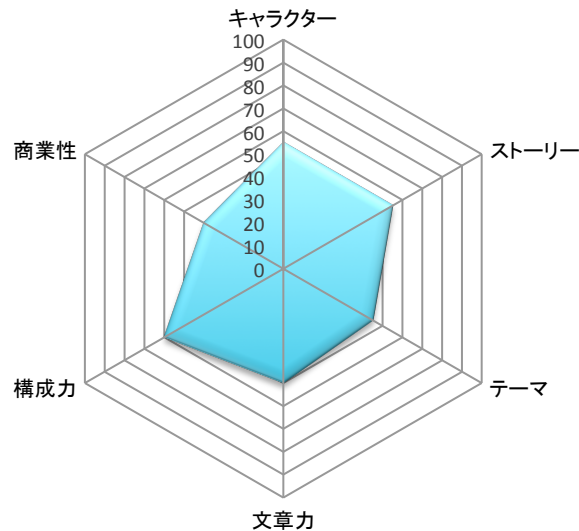
50

構成力

60

商業性

40



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものがない

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・神代の笑わない(笑えないというべきか)アイドルという設定が面白い。主人公は何かして笑わせようががんばりつつ、最終的に笑うというザ・ライトノベル的な脚本も分かり易くて非常に読み易いものであった。

・強いて問題点をあげるとするならば、神代の過去の出方が軽過ぎるということか。母親が死んだとあるとか家政婦と話すことがなかったという設定自体はよいが、それがあまりにも軽く説明されてしまうため、ご都合主義感が拭えない。改善策として、例えばこれが会話で説明されるのではなく、神代のこどもの頃の日記などを主人公がたまたま手に入れて読んでしまい、それまで全部面白い日記だったのが母親が死んだ日付以降日記が書かれなくなり、少し間を空けて暗い日記しか書かれないようになった、などはインパクトがあってよいのではないかと。日記のページに涙の跡があるといったあとづけも面白いかもしれない。

・最大の問題点はやはり「無難」すぎるということか。物語のストーリーも設定も全て面白くはあるのだが、どこかで見えたことのあるような面白さで、合格点となるハードルの高さを無理せず確実にギリギリの高さで飛び越えて来た印象。願わくば大コケしてもよいから、そのハードルを誰もかやらないような飛び越え方で飛び越えるような、突出したオリジナリティが欲しかった。

合計加点ポイント 0

総得点: 305 / 600

B方式総合得点: 15504 点